

会 報

インターネット版

第 4 4 号

平成23年12月22日



おきなわ



那覇うみそらトンネル

沖 縄 県 土 地 家 屋 調 査 士 会



沖縄県土地家屋調査士会

土地家屋調査士倫理綱領

1、使命

不動産に係る権利の明確化を期し、
国民の信頼に応える。

2、公正

品位を保持し、
公正な立場で誠実に業務を行う。

3、研鑽

専門分野の知識と技術の向上を図る。

那覇うみそらトンネル

本年8月28日供用開始した県内初の海底トンネル、全長1140m
沈埋部分724m トンネル建設費1240億円
那覇空港～那覇港（新港埠頭） 25分→11分
那覇空港～波の上ビーチ 20分→7分
那覇空港～国際通り 22分→12分
かなりの経済効果が期待されます。

写真提供：広報部長 糸数 厚

目次



第47回沖縄会定時総会

挨拶	会長	宮城朝光	1
祝辞	那覇地方法務局	稲吉伸博	2
祝辞	日本土地家屋調査士連合会会長	松岡直武	4
祝辞	那覇市長	翁長雄志	6
第47回定時総会のアルバム（ホームページより抜粋）			7
新役員・支部長就任挨拶			12
支部だより	那覇支部		25
	宜野湾支部		26
	北部支部		27
	宮古支部		28
金城榮秀先生の法務大臣表彰の報告			29
米軍基地とエイサー			30
琉球の風（東京会会報の投稿記事より）			31
那覇支部のもあい			36
編集後記			38

平成23年度第47回定時総会



挨拶

沖縄県土地家屋調査士会

会長 宮城朝光

皆さん、こんにちは。無事総会の議事も滞りなく終わり、式典を残すのみとなりました。本日ここに、沖縄県土地家屋調査士会の第47回定時総会の開催に際し、稲吉那覇地方法務局長殿をはじめ、那覇市の神谷副市長殿、さらに多数のご来賓の皆様方には御公務ご多忙の折にも関わりませず、ご臨席を賜り、誠にありがとうございました。心より厚く御礼を申し上げます。また会員の皆様におかれましても、沖縄の各地からご参集いただき、本総会を盛大に開催できましたことを心から御礼申し上げる次第であります。さて、去った3月11日に起きた東日本大震災においては岩手会の土地家屋調査士1名が大津波で亡くなっており、さらに宮城県や福島県においても、会員の家族や事務所が被害を受けており、また我が会の菅野会員の兄弟も被災されました。今回の東日本大震災により亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますと共に、被災された皆様の、皆様そのご家族の方々に対しまして心よりお見舞い申し上げます。さて、沖縄会においての平成22年度の重点施策として、筆界に絡んだ筆界特定制度の活用とADRの活用をするための研修を充実させる予定でありましたが、九州ブロック協議会の担当会として多忙を極め、思うような活動はできませんでした。地方分権改革の中で登記事務の地方移管問題は一旦保留の状態になっていて、危機は脱したかと思えるが、全国市長会では国に残すべき事務としての意見もあり、検討しているところで

完全に消えた訳ではありません。日調連と法務省に頑張ってもらっているが最後まで注視する必要があります。どちらの状況になろうとも、筆界に関する専門家としての実力をつけ、国民の不動産に係る権利の明確化に寄与できるよう努力し、国民に認知されれば資格者としての存続は可能であると思います。沖縄県における景気も去年の秋頃から今年の春頃にかけて持ち直しつつある時に、東日本大震災の影響等もあり不透明な状況の中で業務の減少、報酬額の低廉化等、土地家屋調査士を取り巻く環境も極めて厳しい状況下にあります。しかしそのような中にあっても、土地家屋調査士業務は決して悲観すべき業界ではないと信じております。従来型の表題登記を前提とした登記業務ならず、土地家屋調査士の経験を生かした新たな業務の開拓が必要であります。特に不動産登記法で筆界の定義がされたことにより、現況優先でされてきた二項道路のセットバックは土地家屋調査士が入り込めるのではないのでしょうか。会員の英知を結集して新たな業務の開拓が必要です。今こそ会員の力を結集し、充実した土地家屋調査士制度にしていきましょう。終わりに当たり、本総会で話し合われたことが会員各位のご効力とご理解によりまして今後の沖縄県土地家屋調査士会の将来に向けて意義ある総会であったと思えるように、祈念しまして私の挨拶とさせていただきます。

平成23年度第47回定時総会



祝 辞

那覇地方法務局

局長 稲吉 伸博

本日、第47回沖縄県土地家屋調査士会定時総会が開催されるにあたり、県内各地の会員の皆様に直接お目にかかって、お祝いの言葉を述べる機会を得ましたことを大変光栄に思います。貴会、及び会員の皆様には平素から登記事務をはじめ、当局の所掌事務の円滑な運営に各別のご協力とご支援をいただいておりますことに対し厚く御礼申し上げます。貴会におかれましては、土地家屋調査士制度の充実発展のために日々ご尽力され、着実にその成果を上げておられます。これはひとえに会員の皆様が土地家屋調査士としての社会的役割と使命を強く自覚され、国民の信頼と期待に応えて来られた賜であり、心から敬意を表する次第であります。また、先ほど、多年にわたり、土地家屋調査士業務に従事された会員の方々を表彰させていただいたところありますが、受賞されました方々の今日までの御労苦とご努力に対し敬意を表し、心からお祝いを申し上げますと共に、なお一層のご活躍を祈念申し上げます。本日はせっかくの機会でありますので、法務局の取り巻く情勢について若干紹介させていただきたいと思っております。第1に東日本大震災による被災地等への支援についてであります。初めに東日本大震災で被災されました皆様方には心からお見舞いを申し上げます。被災者の数が2万数千人にも及ぶという未曾有の被害が発生し、東日本大震災から約2か月あまりが経過しましたが、被災地においては避難所や一時受入れ施設等で、未だ不自由な生活を余儀なくされている状況にあります。このような状況にあって、国民の生活に密接

に関連する業務を担う法務局においては、早急、早急に被災法務局の業務環境の正常化を図ると共に被災された住民の方々への生活、復興支援に向けて国を挙げて取り組んでいるところであります。第2に、オンライン申請についてであります。オンライン申請については、政府においてオンライン利用拡大行動計画が平成20年9月12日に取りまとめられ、比較的早期に効果が現れやすい登記事項証明書の交付請求や、株式会社登記の申請について政府も許容として、平成23年度末の目標値を57%、不動産登記申請を含む登記手続き全体については平成25年度末の目標値が71%と設定されたところであります。登記事務のオンライン申請の利用率アップを図るため、これまで貴会と法務局とで連携をし、指示の取り組みを行い、右肩上がりで伸びてきたところでありますが、最近伸び悩んでいる状況であり、不動産の利用率は19%台にとどまっています。オンライン申請の利用拡大にあたっては、最大のユーザーであります皆様方のご協力なくしては、目標利用率の達成は困難でありますので、今後ともご協力をお願いいたします。第3に、事務の包括的民意開拓についてであります。登記簿の公開等に関する事務の包括的民意開拓については、平成20年4月から始まり、今年度福岡ブロック管内では、新たに7局21町が導入され、計画された全ての町で実施されることになりました。那覇局においても今年度、宮古島支局、石垣支局に導入したことによりまして、県内全ての登記所で実施しているところであります。第4に、法14条地図作成作業につ

平成23年度第47回定時総会



いてであります。本年度は那覇市字古波蔵、古波蔵 2 丁目地区の面積 0.27 平方キロメートルに筆数で 1,161 筆について 14 条地図作成作業を実施しております。本月 15 日に那覇市、那覇市立古蔵小学校体育館で地図作成作業の住民説明会を実施しました。当作業の実施の円滑な実施のために皆様方のご協力を賜りますよう、この場をお借りしましてお願いを申し上げます。第 5 に筆界特定制度についてであります。筆界調査委員の皆様方には、本制度の円滑な運用にご協力とご支援をいただいておりますことに、御礼を申し上げます。お陰をもちまして筆界特定事件は順調に処理されております。しかし本制度創設から 5 年が経過しましたが、最近の事件数を見ますと、筆界特定制度の利用はやや低調な状況にあります。そこで、制度のより一層の普及、定着をはかると共に、筆界特定制度の積極的な掘り起こしのため、昨年 11 月、沖縄県立博物館、美術館において筆界特定に関するイベントを開催したところ、かなりの反響があり大盛況に終えたところでありませ

本年度は、11 月 13 日の予定であります。沖縄市で昨年同様、筆界特定制度の周知のためのイベントを開催したいと考えているところであります。皆様方にはこの趣旨をご理解の上、更なるご協力と積極的なご参加をお願いしたいとお願い申し上げます。以上、法務局を取り巻く情勢について何点か申し上げましたが、私ども法務局といたしましては、今後とも適正、迅速な事務処理を行い、法 14 条地図作成作業を初め、表示登記等に関する重要施策に積極的に取り組んで参る所存でございます。このことが国民の皆様方の負託にこたえる事になるものと考えます。どうか土地家屋調査士の皆様方におかれましても、その社会的役割がますます重要視されている折、表示登記制度がより一層国民の期待と信頼にこたえられるよう、今後とも引き続きご尽力をいただきますようお願い申し上げます。最後に本総会の盛会を祝し、沖縄県土地家屋調査士会の今後益々のご発展と会員の皆様方のご健勝、ご活躍をお祈り申し上げます。私の祝辞とさせていただきます。



平成23年度第47回定時総会



祝 辞

日本土地家屋調査士会連合会

会 長 松 岡 直 武

本日ここに、那覇地方法務局長殿をはじめ多くのご来賓の方々をお迎えして、沖縄県土地家屋調査士会の第47回定時総会が盛会に開催されましたことをお祝い申し上げます。日頃、日本土地家屋調査士会連合会の会務運営にご理解ご支援を賜り改めて感謝の意を申し上げます。おかげをもちまして平成22年度の連合会の事業は概ね初期の目標を達成することができたものと思っております。この場をお借りしまして厚くお礼を申し上げます。さて、本年3月11日に発生しました東日本大震災は、東北から関東の広い範囲に甚大な被害をもたらしました。被災されました会員、ご家族、ご親戚の皆様には、心からお見舞いを申し上げます。また、岩手会の会員1名が、残念ながらお亡くなりになられたとの報告を受けております。改めまして故人のご冥福をお祈りいたします。連合会では震災発生後直ちに災害対策本部会議を開催し、以来今日まで、被災地の各土地家屋調査士会等を通じ情報の収集、救援物資の手配等をはじめ、政党や議員連盟への要望、要請を行い各種ヒヤリングに出席して説明してきたところであり、全国の会員の皆様にお知らせした通りであります。今後はこれまでの災害対策に加え、復旧復興支援に力を傾注していきたいと考えております。具体的には、大規模な地殻変動に伴い、土地の筆界会相対的に移動したと考えられることから登記実務における取り扱いに混乱のないよう法務省から発出された事務連絡の摘出な運用の確保、今後の被災地域における登記所備え地

図の取扱を検討するための現地調査、所作作業、修正作業が必要となった場合の専門家集団としての必要な支援、職権による滅失登記における現地調査の支援などが必要になると考えております。また、環境省から協力要請がありました、瓦礫撤去に伴う法的問題への対応の為の支援活動につきましても、被災地の土地、各土地家屋調査士会にお願いしているところであります。これらを含めまして、復興過程における予算処置や専門職の活用等について、政府にも、国会にも即ち要望等している所であります。いずれにしましても被災地域のみならず、全国の会員の皆様のご協力の下、これらの作業を進めていかなければならないと考えておりますので、要請等がされた際には、何卒ご協力をお願いいたします。平成22年度事業に目を移しますと、昨年は土地家屋調査士制度制定60周年及び表示登記制度創設50年の年でありました。連合会では、6月の定時総会に合わせて開催いたしました記念式典をはじめ、10月に日比谷公会堂にて行いました、地積シンポジウム2010土地家屋調査士全国大会 in 東京、さらには全国一斉表示登記無料相談会など、各種行事を開催させていただきました。この全国一斉表示登記無料相談会につきましては、本年度も開催を予定しておりますので、引き続きご協力をお願いいたします。また、本年3月には土地家屋調査士を主人公とした待望のテレビドラマが、黒木瞳さん主演でテレビ朝日系列の土曜ワイド劇場にて放映されたことが記憶に新しい事かと思えます。いず

平成23年度第47回定時総会



れの行事にしましても、全国の会員の皆様のご協力がなければ成し得なかったものと考えておりますので、改めまして御礼を申し上げます。政府の地域主権戦略会議の国の出先機関原則廃止における登記事務の地方移管に関する議論に関しましては、土地家屋調査士制度の根幹に関わる問題であることから、各方面からの情報収集を行うとともに登記事務をはじめとする法務局、地方法務局が取扱う事務は国が直接行うべき事務であると強く主張して参りました。昨年末の政府のアクションプランにおいては、登記事務については特に言及されておりませんでしたので、議論は一定の終息を見たものと推察しておりますが、今後も地方自治体の意見を聞きながら進めていくこととされておりますので、状況を注視しながら対応してまいりたいと考えております。土地家屋調査士会 ADR につきましては、即ち 48 回で ADR センターを立ち上げられましたが、残り 2 回につきましても設置に向けて準備を進めているとのことで、近い将来すべての土地家屋調査士会においてセンターが設置されることとなります。一方で、ADR 認定土地家屋調査士の数も第 5 回の土地家屋調査士特別研修を終え合計 4,512 名となりましたが、今後もさらに ADR 認定土地家屋調査士の誕生に向けて特別研修の受講促進を図るとともに、ADR 認定家屋調査士の育成に努めてまいりたいと考えております。地積に関する研究につきましては、連合会では、これまで数多くのシンポジウムを開催し、また外部開催の行事等に参加するなどしてその研究を深めてきたところでありますが、昨年 10 月の地積シンポジウム 2010 土地家屋調査士全国大会 in 東京の開催に合わせて、念願の地積を体系的に研究及び情報発信する機関として、早稲田大

学総長の蒲田薫先生をはじめ、高名な先生方が発起人となられ、地積問題研究会が設立の運びとなりました。これにより地積に関する制度及びその環境の充実発展がより一層はかられるものと確信しております。皆様におかれましても、是非同研究会にご入会いただき、地積に関する制度、ひいては土地家屋調査士制度の充実発展にご協力いただきたいと思います。よろしく願いいたします。その他申し上げたいことは多々ありますが、詳しくは、6 月の連合会定時総会において報告させていただくこととします。昨年度、私はこのご挨拶のなかで、この節目の年を機に全国の会員が心を一つにして、あらゆる困難を克服し心新たに土地家屋調査士制度あるいは表示登記制度のさらなる充実発展を図り、広く市民社会に有用とされる専門資格者であり続けなければならないと誓う年にしたいと申し上げましたが、大震災という大きな困難に直面した今、改めてそのことの重要性を認識していたしているところであります。土地家屋調査士制度を取り巻く環境には依然として厳しいものがありますが、いつの時代におきましても、社会の要請に応え国民の信頼に応える事ができる土地家屋調査士であるため、連合会は引き続き会員の地位の向上と土地家屋調査士制度の充実発展に全力で取り組み、役員一丸となって邁進する覚悟であります。沖縄県土地家屋調査士会ならびに会員諸兄の一層のご理解とご提言を賜りたくお願い申し上げます。結びにあたり、本日ご列席の皆様のますますの御健勝と沖縄県土地家屋調査士会のますますのご発展、また、東日本大震災により被災されました方々の一日も早い復興を祈念し、ご挨拶の言葉といたします。

平成23年度第47回定時総会



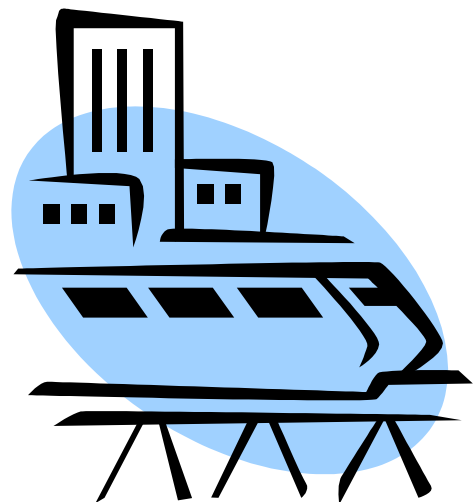
祝 辞

那 覇 市 長

翁 長 雄 志

沖縄県土地家屋調査士会第47回定時総会の開催にあたり、ご挨拶を申し上げます。貴会におかれましては、宮城朝光会長を先頭に調査測量業務等を通じて、本市の公共施設の整備促進等にご尽力いただき心より敬意を表します。また、日頃より市政へのご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、本市は、今年市政90周年の節目を迎えております。これまでモノレールなどの社会資本の整備が着々と進み、今年7月には国際通りの新しい顔となる牧志安里地区の再開発事業、さいおんスクエアが供用開始されます。また、農連市場地区では、事業計画、組合設立の認可取得を受け、防災街区整備事業が着手される予定でございます。さらに沖縄都市モノレール延伸事業における延長区間のインフラ部分の実施設計に着手いたします。このような都市基盤の整備には正確な測量業務が必要不可欠であり、私ども行政が円滑に公共事業を推進できますのも、日頃からの会員の皆様のご協力のお陰であり、深く感謝申し上げます。本市では、いい暮らしより楽しい暮らしをキャッチフレーズに協同による街作りを進めておりますが、心豊かに日々、楽しいと感じる街作りのためには、様々な関係機関や市民の協力が欠かせません。会員の皆様のご協力の街作りへのお力添えをこの場をお借りしてお願い申し上げます。

結びに、第47回定時総会のご盛会と沖縄県土地家屋調査士会の今後益々のご発展、そして会員各位のご健勝とご活躍を祈念いたしまして私の挨拶といたします。



第47回定時総会



司会の糸数厚総務・広報部理事



開会の辞 下地裕之副会長



宮城朝光会長の挨拶



議長を務める佐久川紀安先生



会場の風景



執行部席



監査報告の徳森良雄先生

議案審議 質疑・応答の様子



役員改選



新屋吉雄選挙管理委員長



選挙管理委員の皆さん



会長立候補者の宮城朝光会員



会長立候補者の又吉豊会員



セレモニー（式典の部）



司会の山里修総務部理事



来賓の皆さん



倫理綱領斉唱の比嘉直美会員



倫理綱領斉唱 会員の皆さん



会長挨拶



法務局司会の国吉庶務係長



福岡法務局長表彰の嘉手川重要会員



福岡法務局長表彰の金城宏盛会員



那覇地方法務局長表彰の仲宗根善浩会員



那覇地方法務局長表彰の菅野貴司会員



仲宗根善浩会員の謝辞



連合会表彰の仲真良治会員(代理受領)



九州ブロック協議会表彰の伊波克之会員



九州ブロック協議会表彰の新垣武史会員



沖縄県土地家屋調査士会会長表彰の皆さん



来賓祝辞 那覇地方法務局長 稲吉伸博様



来賓祝辞 那覇市副市長 神谷博之様



来賓祝辞 連合会会長(代読下地副会長)



閉会の辞 仲宗根副会長

役員挨拶

会長 就任のご挨拶



会長 宮城 朝光

平成23年5月27日沖縄県土地家屋調査士会第47回定時総会において、会長に選任いただきました。那覇支部の宮城朝光です。

今回は会長選挙もあり、3期目となる私にとっては厳しい選挙戦による当選となりました。現職会長としては、今まで堅実に会務の運営を、厳しい予算の中で行い、頑張ってきた今までの理事の皆様には感謝しています。外から見ると、会の執行部は、研修会や総会でしか一般会員とは会う機会がなく、一般会員から見ると、楽で楽しい仕事と思われていると思われていますが、実際は県民からの苦情処理や法務局との協議会や要請等多岐にわたり業務があります。

理事は自分本来の業務をなるべく犠牲にしないよう、午後3時、4時からの会合を頻繁に行っています。これは、補助者のいない役員のための苦肉の策であります。会の事業執行の裏では何回となく担当役員が会合を持ち、充実した事業執行にすべく頑張っています。私も会長に立候補した時の公約は、沖縄市を中心とした中部の市町村の業務発注を土地家屋調査士を使うように改善することと、南城市を中心とする南部市町村の業務発注を土地家屋調査士を中心とした業務発注に改善させることと、公約し、それに向けて取り組んでいるところですが、公嘱協会の地元役員の意見も聞きながらの行動となるので、なかなかすすめられずにいます。日調連でも土地家屋調査士の新たな業務を開拓していくと取り組んでいます。なかなか難しいようです。土地家屋調査士法の中で調査士の業務として規定されている業務でさえ100パーセント土地家屋調査士がなしえていなく、非調査士の関与によりなされている状況です、土地家屋調査士法が規定している業務を100パーセントに近い確率で土地家屋調査士でできるよう頑張っていけば、土地家屋調査士の業務はまだまだいっぱいあるものと思います。そのためにも土地家屋調査士法25条2項に定められている地域における土地の筆界を明らかにするための方法に関する慣習その他の調査士の業務についての知識を深めるよう努めなければならない。という条文を肝に銘じて、会員みんなで将来の土地家屋調査士会が発展するよう頑張っていきましょう。

役員挨拶

副会長 財務部長就任のご挨拶



副会長 財務部長 下地 裕之

第47回定時総会において、宮城朝光現会長が再任されました。私自身も会長の推薦の下副会長の指名を受け再任する事となりました。

過去2年間、宮城会長の下、容赦なしに次から次へと行事があり、大変忙しい日々でした。

特に、次期九州ブロック協議会当番会の財務部長担当副会長が監事の職に就くとの事で有り、九州ブロック協議会会長の熊本県へ会計監査を行いに行きました。九州ブロック協議会の当番会を沖縄県が担当する事となり、総会、各部担当者会同、ゴルフ大会、新人研修会を沖縄会で開催する事となり、素晴らしい方々で構成されていました前役員の皆様のおかげで無事終了致しました。紙面をお借りしまして大変お世話になりました。感謝を申し上げます。

これらに対応して下さった事務局の方々にも改めて感謝を申し上げます。

さて、先日の理事会では、新役員が理事会において顔合わせをし、業務分掌において、財務部長兼任、総務部、広報部を担当致します。各部担当者とは共に力を合わせ頑張っていこうと思います。

調査士会で私の所属する委員会は注意勧告委員会、苦情相談委員会、業務実態調査委員会、事故処理委員会を担当致します。

資格者集団として、県民から信頼され又必要とされ、土地家屋調査士として社会に貢献できる様、私自身も含め会員一人一人が法令、会則、実務に精通し自己研鑽に励み土地家屋調査士制度の明るい将来を目指して資質の向上を期待するものであります。

最後に、これから2年間、会員の声、役員の声を大事に聞きながら、宮城会長を補佐し2年間頑張りますので、会員の皆様のご協力を、宜しくお願いします。

役員挨拶

副会長 就任のご挨拶



副会長 又 吉 豊

このたび副会長に就任しました又吉です。去った総会の折にはお騒がせしまして大変失礼しております。2年1期を副会長として努めることになりましたが、この2年間コツコツと何が出来るか、その希望的な所を述べてみたいと思います。まず、ひとつめは、皆さんへの要望で恐縮ですが、多くの方が参加して登記基準点を早く完成させていただきたいということです。現に登記基準点設置につきましては公嘱協会の事業として行っていますが、その作業は公嘱社員のみならず調査士会の一般会員にもボランティア参加によるご協力をいただいております。まことに頭の下がる思いがします。この場をお借りしまして感謝申し上げます。後は実用化を待つのみです。ところで、登記基準点をまんべんなく設置した場合の利点はいくつもあり、それを体系的に述べてみたいところですが、ここではその手前勝手な利点をひとつだけ述べます。それはGPS等を所有している事務所と所有していない事務所間の格差を解消することができ比較的対等な感じの測量が可能になるということです。即ち、TSのみでの測量が可能になり、厳密網を組むことにより偏りのない精度を確保できます。そうしますと統一的な視点から沖縄の地籍図を眺めることができますし、地積測量図にも任意座標ではなく世界測地系と記載出来るようになります。もともと、旧測地系で作成した国調地籍図等を新測地系で取り扱うにはそれなりの工夫が必要で、個々人对応をされているかと思いますが、会の方でもその方策を示すことが出来れば良いかなと考えたりします。次の、ふたつめは、これもまた要望になりますが特別研修（ADR認定調査士）にさらに多くの方が受講されることを望みます。現在沖縄会における認定調査士は87名、認定率は45.3%で全国2位になっています。しかし、どのように活用するかで足取りが止まっています。法定外紛争解決制度の進展のためには質・量ともに充実する必要がありますが、両方ともに不足しているのが現状かと思われます。私の浅薄な知識ではよく分かりませんが、理由はたぶん法律的専門知識の難解さ、弁護士との協働、縦割りの資格者職種等々制度上のネックになるのが多いためかと考えます。いずれにしても質・量ともにコツコツと充実する必要がありますのでADR研修の参加をお願いします。以上抱負を述べるつもりが要望のみを話してしまいましたが、ささやかながらでも会の発展に資するよう尽力してまいりますのでよろしくお願いいたします。

役員挨拶

常任理事 総務部長就任のご挨拶



常任理事 総務部長 神谷 長秀

総務の仕事内容を知らずに、何事も経験と引き受けてしまいました。忙しくて大変ですが、回りの方々に親切に教えて頂いて助かっています。至らない所も多々あると思いますが、会員はじめ役員の皆様、今後とも宜しくお願い致します。

常任理事 業務部長就任のご挨拶



常任理事 業務部長 仲榮眞 盛松

この度、宮城朝光会長の推薦を受け、理事会において、再び業務部長の役割を担う事になりました、仲榮眞 盛松です。

会員の皆様よろしくお願い致します。

前年度も業務部として、担当させて頂きましたが、調査士業務を行うにおいて、社会状況の変化に伴い、やるべき課題とあらゆる問題があることを痛感いたしました。

今般の業務部としての役割は、全会員が業務を円滑に行えるしくみを、共に知恵を絞り研鑽して、執行できるようにと考えております。

国民の権利の明確化に寄与しながら、やりがいのある調査士業務をみんなで協力、連携しながら、共創していきましょう。

今後とも、叱咤激励よろしくお願い致します。

役員挨拶

常任理事・研修部長就任のご挨拶



常任理事 研修部長 松本 武寿

皆さんの『夢』は何ですか？ 将来どうなりたいですか？
いきなり気恥ずかしい質問です！！
平均年齢が50歳を超える業界で質問することではないですか？

私には『夢』があります。
それもひとつだけではなく、昔からいつも3つも4つも『夢』を持っています。
とりあえず親元を離れて上京し、測量業界に入った時に持った『夢』。
それは『世界一のサーベイヤー（測量技術者）』になることです。
いまだかつて叶えられていませんが、いまだに挑戦中です！

数年前、登記情報の月刊誌に自叙伝のようなものを執筆する機会がありましたが、その時に、『私の趣味は測量です』と書きました。 生意気ですね・・・
趣味が高じて西暦2000年には全国の調査士有志に声を掛けて、富士山のGPS測量を行ないました。 もちろんボランティアで・・・しかも参加費を踏んだくって・・・
2000年（平成12年）当時、富士山の測量成果は大正15年当時のものでした。
GPSが測量業界でも主流になりつつある頃でしたので、この文明の利器を使って大正時代の陸地測量部（現国土地理院）の測量成果をチェックしてみよう！と声を掛けたら30人もの熱い男たちが集まってくれました。
その時のみんなの『夢』は『自分たちの手で日本一の山の標高を決定するんだ！』

その後の2003年～2005年の2年半は、台湾新幹線の軌道決定の為に、台湾全土360 Kmの大規模なGPS測量と、台北から高雄までのレールの0.3mm単位の超高精度測量を経験しました。
初めての日本の新幹線技術の輸出ということで、そこには世界中からサーベイヤーが集まっていました。
フランス、オーストラリア、アメリカ、ドイツ等のエリートサーベイヤー（ほとんど博士号）たちとの議論で、いかに自分が測量技術に関して遅れているかを実感させられました。
台湾在住の2年半は本当に自分磨きだったと思います。
しかし挫折とともに、世界一のサーベイヤーになる『夢』が甦ってきました。
その後、平成17年8月から現在まで沖縄会にお世話になっています。

ところで、私の趣味は『勉強』です。・・・またまた生意気発言ですね。
勉強して目標を達成すると脳からドーパミンが分泌し、喜びと感動で、さらなる高みを望んで
しまいます。

当然、挫折やスランプもありますが、それを乗り越えた時の喜びは何ものにも代え難いものが
ありますよね？

皆さんが土地家屋調査士の国家試験に受かった時もそうだったと思います。

その時の皆さんの『夢』は何でした？

将来どんな調査士になりたいと思われましたか？

『一流の調査士になってやろう！ 日本一の調査士になってやろう！』

そう思ったでしょ？

夢をみるのに年齢は関係ありませんよね。

とりあえず『夢』を叶えた人も、もうひとつ上を目指してみませんか？

皆さんの『夢』を叶えるために、調査士会にどんどん研修の要望を出してください！

これができたら俺は一流になれるんだ！と言ってください。

調査士会に文句だけ言っても始まりません、所詮、構成員は皆さんなんですから。

自分で望んで、自分で動いて、自分で努力して、一緒に一流になってみましょう。

そのためのお手伝いをさせてください。



役員挨拶

常任理事 広報部長就任のご挨拶



常任理事 広報部長 糸数 厚

第47回定時総会において選考され、2期目の理事を務めることになり、新役員での初理事会で広報部長を務める事になりました。

前期は総務・広報部理事として、新垣武史総務部長のもと、祝賀会・総会・懇親会の司会等、それまで避けていた事もどうにか楽しくこなす事が出来、多少なりとも自信につながり、いい勉強が出来たと思っております。また広報部においては伊禮睦前部長に頼りきりでいたが、一緒にまとめてきたホームページのリニューアルも公開にこぎつける事が出来ホットしたのもつかの間で、更なる新しい情報提供を求められており、私自身もバージョンアップしていかねばならない事を実感しております。

会報「おきなわ」においては、年2回発行につき1回はホームページでの掲載になります。冊子では写真掲載も白黒でしたが、ホームページだとカラーで多彩な掲載が出来るのではないかと考えております。また会報・ホームページをにぎやかにするには情報がカギを握ると考えておりますので、会員のみなさんからのご意見や趣味に関する情報、面白い話、感動する話、伝説、ささいな出来事などの情報等提供していただければ、前田克也理事と共に構成して土地家屋調査士を内外にアピールする情報を発信していきたいと思っております。

開業して18年目になりますが、土地家屋調査士という資格により生活させて頂いている事に心より感謝しつつ、土地家屋調査士会の発展また会員の皆様の役に立てるよう精一杯頑張っていきたいと思っておりますので、ご支援とご協力よろしくお願いたします。

役員挨拶

常任理事 社会事業部長就任のご挨拶

引き続きよろしく申し上げます。

常任理事 社会事業部長 久高 兼一



宮城朝光会長より御指名を受けまして就任することになりました。
三度、指名理事を仰せつかることになり、大変光栄です。

七月には、当会宮城朝光会長が日調連九州ブロック協議会会長に御就任されまして、私が事務局長を務めることになりました。改めて気が引き締まります。

さて、六月の第二回理事会では定時総会后、構成員が改めて顔合わせをして業務分掌も行われ、皆さんのやる気に後押しされて、頑張らねば思うようになりました。特に今期の理事の皆さんは積極的に発言される方が多いように見受けられ、今後活発な会議になるように感じます。

今年度事業計画もこれから各部執行に向けて始まりますが、早速、恐れながら皆様へお願いがございます。

まず初めに、本会事務局から送信されますメールは必ず御目を通して、添付文書等の保管をお願いします。

不動産登記法改正時期から、法務局、連合会など連絡通知のメールが大幅に増えました。皆様への連絡通知のメールは実務に支障がないように出来るだけ早くお知らせするようにしています。情報量が何分多いですので事務局も役員も気をつけていますが、突飛な対応が出来ませんので、各自保管していただけますようお願いいたします。

次に、執行部には各支部推薦の八名の理事が就任していますので、本会からの情報取得や本会への御要望伝達に積極的に活用し、連絡を密にして頂きたいです。本会の事業は各支部の協力で成り立っていることもあり、理事会でも御要望を検討しますので御活用をよろしく申し上げます。

また、各支部の研修会等の活動情報も本会を通じて公開発信していただけたら、実務の充実や各支部間の交流を含めてより活発な土地家屋調査士会になるのではないかと思います。

今、経済状況も厳しく、我々土地家屋調査士制度も変化と岐路に立たされる中でありますが、役員自身も会員である一人の土地家屋調査士であります。

会員の皆さんと共々向上出来ますよう努めさせて頂きたいと思っております。何卒、御協力の方をよろしくお願い致します。

役員挨拶

総務 広報部理事就任のご挨拶



総務 広報理事 前田 克也

本会理事会の役員要件は、調査士業務の経験が豊富であり、かつ、当人の事務所経営が安定しており、役員として活動する時間を作れるのが条件であると思うが、私は、まだ開業したてであり、事務所経営もおちつかず、役員としては不適格です。

しかし、なぜに自分は役員になったか。・・・じつは、つい、うっかりその気になってしまったのです。

当初は、別の若手調査士がやることになっており。しかし彼は、支部の幹事と模合の幹事の両方で忙しく。さらに本会の理事までさせては大変だから、君やらないかとの、先輩調査士の進めを、抵抗しつつも、それもそうだと思います。つい、その気になって引き受けたのです。

しかし、やはりなってみると、日々の調査士業務は多難で忙しく、勉強することがいっぱいだし、事務所の経営もうまくいかず。懊悩の日々であり、本会の理事の業務は、まだやりもしないうちから、精神的に負担になってきているしまつです。

さて、このやる前から言い訳ばかりしている駄文を読んだ先輩調査士が頭にきて、宜野湾支部の大城支部長に電話をいれ、あきれた前田を何とかしろと言い。大城支部長は、島副支部長に電話をいれ、役立たずの前田を何とかしろと言い。しかたなく島副支部長は僕に電話をいれ、お前なんかクビだ、と・・・と なるまでの間は、僕なりに努力はしたいと思います。

役員挨拶

総務 社会事業部理事就任のご挨拶

総務 社会事業部理事 金城 行男



皆様こんにちは、この度那覇支部推薦で総務部及び社会事業部の理事となりました金城行男です。

那覇支部では副支部長をしております。支部推薦での本会の理事ということで出来る限り支部からの言葉を本会のほうに反映できるようにしていきたいと思っております。微力ではございますが久高社会事業部長、神谷総務部長を支えて土地家屋調査士会の発展のため尽力していく所存です。どうぞ皆様よろしくお願ひ致します。

役員・支部長挨拶

業務 研修部理事・宮古支部長

就任のご挨拶

業務 研修理事 宮古支部長 下地 和博



この度、平成23年度第2回理事会において、宮古支部推薦により、再度業務部と研修部の理事に就任致しました下地和博です。

過去2年を振り返ると、気持ちだけで、力不足で、なかなか思う様に調査士会の為、宮古支部の為、動けなかったと反省仕切りです。

ですが、就任したからには努力する機会を与えられたと思ひ自己研鑽して行こうと思ひます。

これから2年間 調査士会及び宮古支部の為 少しでも役に立てる様、努力していきます。

会員の皆様、ご指導 ご協力宜しくお願ひします。

役員・支部長挨拶

業務 研修部理事・八重山支部長

就任のご挨拶



業務・研修理事 八重山支部長 遠藤 正夫

この度、業務部、研修部及び八重山支部長を務めさせていただくことになりました。理事として今回で2期目となります。1期目は、社会事業部、財務部として、いろいろな経験をさせていただきました。関係方々に深くお礼を申し上げます。さて、今般土地家屋調査士を取り巻く環境は急速に変化している状況です。今回業務部、研修部の理事として1期2年間活動することになりますが、環境の変化に取り残されないよう、仲榮眞業務部長、松本研修部長を支えながら、沖縄県土地家屋調査士会の発展、及び会員の皆様の役に立てる理事として精一杯頑張りたいと思いますので、今後ともよろしくお願ひします。

支部長挨拶

那覇支部長就任のご挨拶



那覇支部長 島袋 裕二

謹啓 新緑の候、いよいよご健勝のことと拝察申し上げます。さて、私儀このたびの第40回定時総会の決議により、前支部長新屋吉雄氏の後任として新支部長に就任しました。

5期務めました支部役員在任中は格別のご芳情を承り、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

今後は微力非才の身ではありますが、那覇支部長に課せられました役割を果たすべく、新任務に邁進する覚悟でございます。

なにとぞ前支部長同様のご支援とご厚情を賜りますようお願い申し上げます。まずは、略式ながら書中をもってご挨拶申し上げます。

敬具

支部長挨拶

宜野湾支部長就任のご挨拶



宜野湾支部長 大城 行史

この度、當原前支部長よりバトンタッチを受け宜野湾支部長を務めることになりました大城行史です。

去った5月の宜野湾支部総会で私が支部長にということになりその場で「本当に異議はないんですか？」と確認しましたが、「異議なし」ということでしたので引き受けることにしましたが、自他共に認めるいいかげんな自分が、はたして支部長を務まるのかと未だに不安に思っておりますし、ましてや當原先生の次というのも、かなりプレッシャーを感じています。

しかし、今更泣き言を言ってもしょうがないので、當原前支部長のようにはいかないとしても自分なりに、本会又支部のみなさんのお役に立てるよう頑張りたいと思いますので、みなさまの御協力又御指導宜しくお願い致します。

南部支部長就任のご挨拶



南部支部長 吉野 仁

3月11日の東北大地震にはじまり、欧州のユーロ圏の信用不安など、平成23年は日本国も世界的にもいい状況ではなかった。バブルのころ建設業界や不動産業界の隆盛の一端をかいまみてこの業界に足をふみ入れた(平成5年)が、独り立ちしたあたりから様子がおかしくなった。苦勞して取得した調査士業務も自分の力量不足のせいもあるが、なかなか大変だ。そういった状況の中今年、南部支部の支部長に就任することになった。自分自身は、リーダーや班長といった指導力や人格が不可欠の類いのものは任にそぐわないと自覚しているが、前支部長からの指名であったので引き受けることにした。支部会員23人のなかでは中堅になると思うが、経験豊かな先輩方、生きのいい新人たちの世話役としてなんとか任期をまっとうできればと思っている。二ヶ年の任期中宜しくおねがいします。

支部長挨拶

中部支部長就任のご挨拶

中部支部長 宮里学



この年度、中部支部総会において、中部支部長に就任いたしました宮里学です。中部支部長就任にあたり一言ご挨拶申し上げます。中部支部長就任につきましては和宇慶前中部支部長の推薦によるものですが、支部長を務めるのは今回がはじめての事でいろいろ不安はありますが自分なりにがんばっていききたいと思います。

中部支部長就任にあたり、本会与支所との連携、法務局とのパイプ役としてしっかりやっていくことと、レクリエーション等を通して支部会員相互のコミュニケーションを図り、若手からベテランまで楽しい雰囲気で行っていきたいとおもいます。

さらに異業種との交流会等にも支部会員と共に積極的に参加し調査士会の知名度アップを図っていききたいと思います。

また今年度から公職協会による登記基準点が整備されていきます、それに伴った研修の充実もおこなって行きたいと思えます。

しかし、何を行うにも第一に支部会員の協力が必要になりますどうぞ会員の皆様のご理解、ご協力をいただきながら微力ながらがんばっていきたくおもいますので今後とも宜しくお願いいたします。

北部支部長就任のご挨拶

北部支部長 仲井間 慎也



みなさん、こんにちは。この度、支部長を務めさせて頂くことになりました、仲井間慎也と申します。開業してから早いもので、もうすぐ、まる4年になります。正直なところ、支部長という大役を務めるには、まだ、いろいろな面で、経験不足なところがあります。研修会等には、会や支部を含め、興味深く、積極的に参加しているつもりですが、いざ、自分が、研修で何をするのかを考え、実行するまで大変なことであると、つくづく感じております。研修会や懇親会と、何をしたいのか、正直、不安でいっぱいです。先輩方にいろいろと相談しながら、いたらないところも多々あるとは思いますが、自分なりにがんばりたいと思えますので、今後とも宜しくお願い致します。

那覇支部 研修会（平成23年7月20日開催）

那覇支部では、7月19日～22日の4日間、8班に分けて研修を行いました。

3班・4班の研修の様子



那覇市支部3班、4班の研修会開始。参加者8名



宮城清先生からも沢山の貴重な意見を頂きました。



松川先生(顧問)、金城榮秀先生(名誉会長)の研修風景



宜野湾支部 研修会&バーベキュー（平成23年8月27日開催）

宜野湾支部では、8月27日（土）の午前中に美浜メディアステーションにて研修会を行い、午後から北谷サンセットビーチにてバーベキューを行いました。

Rise Logic の嘉数淳さんが指導してくれました。真剣です。



台風来襲の予報が外れて、心地よい日差しの中で楽しく過ごすことができました。



北部支部懇親会(平成 23 年 9 月 8 日開催)

北部支部では、懇親会と称しまして、平成 23 年 9 月 8 日(木)に、パークゴルフ(グランドゴルフ)大会を行い、その後バーベキューをしました。場所は、今帰仁村字諸志にありますウェルネスパークゴルフ場です。高台にあるので、海もきれいに見渡せ、最高の景色です。楽しい懇親会でした。その様子を写真でお届けいたします



名嘉治男さん



テントで休憩の様子



玉城義克さんと補助者の方々



松本武寿さん、藤原秀子さん、補助者の方々



島袋徹志さん補助者の方々



大城充さんと補助者の方々

湧川弘一先生 慰労会

平成 23 年 6 月末日をもって湧川弘一先生が沖縄県土地家屋調査士会を退会されました。
湧川弘一先生は昭和 42 年 10 月 10 日に入会され 45 年に渡り、沖縄県土地家屋調査士会及び宮古支部の為、ご尽力頂きました。
湧川先生に感謝と慰労、そして今後の更なるご活躍を祈念いたします



金城榮秀先生法務大臣賞表彰



金城榮秀先生が、多年にわたり調査士業務に精励し法務行政に寄与したとして、この度法務大臣表彰を受賞されました。

金城先生は、平成2年入会以来今日まで約21年間業務に従事し、申請業務の正確性と迅速化を図るため、早くから機械化を導入、業務の合理化を推進し、その技量は他会員の模範となっております。



松岡連合会会長との記念写真

献身的な活動は、会員からの信望を厚くしております。特に、平成13年に副会長就任してからの2期4年間に、研修会及び講演会を頻繁に開催するとともに、会員相互の融和を図るための親睦行事を企画して、会員が会への帰属意識を高めるため多大な貢献をしておられたことが印象に残ります。

平成5年に理事として執行部入りしてから、平成19年に会長職を辞するまで、会員の指導及び会務運営への

役員歴

平成五年	沖縄県土地家屋調査士会理事就任
平成十三年	沖縄県土地家屋調査士会副会長就任
平成十七年	沖縄県土地家屋調査士会会長就任
平成十九年	沖縄県土地家屋調査士会名誉会長就任

現在に至る



米軍基地とエイサー

那覇支部 松川 清康

今の世の中は不可知ではないのにせよ、不可解な出来事が多過ぎる。日米の沖縄基地に対する行方についても不可知とはいえ不可解な出来事ばかりである。基地のない豊かで平和な島を実現するために挑み続ける沖縄の人達は半世紀以上も惑い続けている。

第二次
世界大戦で



20万人の犠牲者を出し、国内唯一の地上戦から66年、日本に返還してから39年という時が過ぎた。

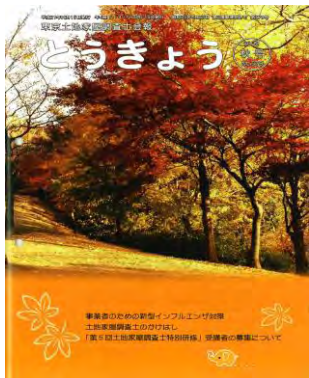
だが沖縄はいまだに本当の意味での本土復帰を果たしていない。今なお、日本国内にある米軍基地の面積の約75%は沖縄に存在する、その中で嘉手納飛行場は東洋最大の米軍基地である。米軍嘉手納基地を離着陸する戦闘機や輸送機などの爆音に悩まされ続けている基地周辺住民は生活を守るために基地反対運動も繰り返し行われている。安眠を妨害する未明離陸が生活に与える影響は大きい。

沖縄の太鼓踊りの夏の風物詩として、エイサー祭り大会がある、有名なエイサーのひとつに嘉手納町千原エイサーがある。随所に空手の形を取り入れた男性だけの独特な演舞である。千原という村落は1800年ごろに、那覇や久米、首里から移住して集落を形成し発展した村落である。だが、その古里(村落)は嘉手納基地に接収され、その面影すらない、千原村落の記憶は老人たちの思いの中にしか存在しません。それでも先人が残した千原エイサーを千原保存会が伝承しています。誇りや、伝統や、自信や、古里を失った悲しみや、その様な思いをかきたてながら、老人も壮年も若者も、そして子供たちですら、夏が来るとエイサーを踊るのです。



『琉球の風』(東京会会報の投稿記事より)

沖縄県土地家屋調査士会 松本武寿



皆さんこんにちは。沖縄会の松本です。初めまして、の方もいればそうでない方もいらっしゃるかもしれませんね。

私は昭和 55 年に高校卒業後上京、昭和 57 年の調査士試験に合格し、

昭和 59 年に渋谷支部で登録、昭和 63 年江東支部、平成 4 年大田支部と移り、平成 17 年に沖縄会へ移転しました。

生まれは那覇ですが、人生の半分以上を東京で過ごしておりました。なぜ沖縄に戻ったかといいますと・・・。

ダイビングが好きで、ひどい時には 1 年間に 10 回以上ダイビングの為に沖縄へ行っていました。実家へは寄らずに、慶良間諸島、久米島、宮古島、石垣島、西表島、竹富島、黒島と沖縄の離島を潜り歩いており、その為に事務所の経営状況が圧迫され、それならいっそのこと移住(帰郷?)すればいいんじゃないかってことで帰ってきました(笑)

皆さんの中には『沖縄フリーク』がおられると思いますし、私より穴場をご存知の方が多いと思います。そこで今回は『琉球の歴史』について少し書いてみたいと思います。

三山時代

ご承知のように昔、沖縄は日本ではなく琉球王国という独立国でした。

ちょうど日本の戦国時代には琉球でも城(ぐすく)を砦とした有力な武将(按司・あじ)が群雄割拠し覇権を争っていた。

その中でも琉球北部の『北山』、中部の『中山』そして南部の『南山』とそれぞれのエリアで力をつけた武将が台頭し琉球全体が 3 つの勢力に分かれて

いった。それを三山時代と呼ぶ。

それぞれが中国の明朝と国交を結び東南アジアの貿易を許されていた。

北山では攀安知(はんあんち)という武将が、現在の世界遺産でもある今帰仁城(なきじんぐすく)に強固な要塞を築いて北部地域を支配し、中山では尚思紹(しょうししょう)が王となっていた。その他、中山には座喜味城、勝連城、首里城などの有力なグスクも存在しており中山王は常に緊張を強いられていた。

南山では糸満の大里にグスクを構えた他魯毎(たるみい)が政権を握っていたのである。



琉球統一

そして時の中山王・尚巴志(しょうはし)が 1416 年(日本の室町時代)に独裁政権に不満が噴出して北山を滅ぼし、1429 年には内紛の絶えない南山をも併合し、首里に琉球最初の統一政権を樹立した。こうして第一尚氏王朝が誕生した。

しかし尚巴志亡き後は王位承継の争いや有力按司同士の争い(護佐丸・阿麻和利の乱 1458 年)などにより、尚氏の力は衰退していき 7 代目の尚徳(しょうとく)はまれにみる暴君で、自らに従わない者は処刑し、また罪のない多くの者を苦しめた為国が乱れ悪人がはびこり、王は失意のまま病死し第一尚氏の王朝は滅亡した。

しかし尚徳は 9 年間の在位中に 11 回も中国へ進貢するなどして外交に努め、朝鮮に進出するなどの交易行って琉球発展に寄与していた。

レキオス

琉球は1200年代中頃から中国や東アジアとの貿易を開始していたが、1372年にその当時アジアで絶大な権力を誇っていた明の皇帝から冊封(王国としての承認)を受け、その権威を背景に貿易国として栄えた。

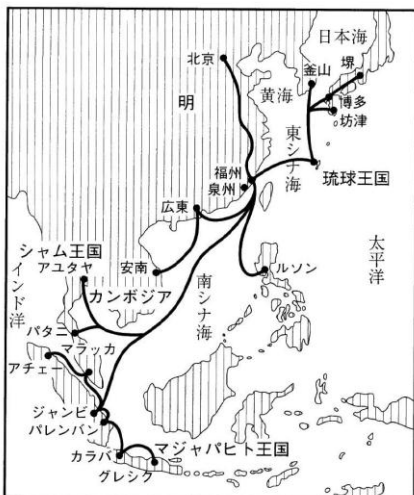
その交易範囲はルソン(フィリピン)・安南(ベトナム)・シヤム(タイ)・ジャワ・スンダ・パレンバン(インドネシア)・マラッカ(マレーシア)へと帆をはらませ大交易を展開した。

そして、これらの地で買い入れた蘇木や香料・象牙の加工品など南方産の品々を、市場である日本や朝鮮、そして中国で売りさばき、莫大な利益をあげていたのである。

琉球は東南アジアの中継貿易国としてヨーロッパ人にも知られるようになり、彼らは琉球のことをレキオ、琉球人のことをレキオスと呼びひとつの王国として認めていたのである。

では、なぜ東シナ海に浮かぶ小さな王国が、ここまで交易圏を拡大することができたのであろうか。それは地理的な条件にもよるが、なによりも、東アジアに君臨していた中国皇帝を後ろ盾にしていたことと、琉球の船大工の優れた造船技術があったからである。

朝鮮では琉球型戦艦を造り朝鮮沿岸を襲う倭寇対策に威力を発揮したという。



高良倉吉著『琉球の時代』より作成。

第二尚氏王朝

尚徳の死語、家臣団はその非道な政治を反省し『物呉ゆす者ど我が主』(ほどこしをできる者こそが国王)であるとして、1470年に尚徳の先代から財政・外交を任されていた金丸を推挙して国王に立てた。

金丸は即位して尚円(しょうえん)と称した。これを先の王朝と区別して第二尚氏王朝という。3代目の王、尚真是50年にわたって王位に君臨し、第二尚氏王朝による琉球王国の基盤を確立した。

尚真是中央集権的な支配体制をととのえるため、各地に割拠する有力按司を首里に住ませ(集居)、地方には按司掟(あじうち)という役人を派遣して領地の管理をまかせた。諸按司には旧領からの得分権(相応の収入)を保障し、版図(支配下の土地・人民)は王府の支配下に置いた。

また地方の行政区画も整備され、現在の市町村にあたる区域を間切(まぎり)、字とシマとよんだ。按司には位階があたえられ、神女職は王の姉妹を最高神女として組織化され、各地のノロ(神女職)もその統制下におかれた。

このように尚真期に、王を頂点とした身分制度の基盤が確立し、祭政一致による中央集権体制が整えられた。

こうして第一尚氏の7代64年間の王朝に対し、第二尚氏王朝は1470年から1879年までの19代410年間の永きに渡って続いていくのである。



島津の琉球侵略

17世紀初頭まで尚氏の政治と海外貿易の富で、琉球は当時世界でも類を見ない、争いを好まない武器を持たない王国であった。

そこに目をつけたのがそれまで善隣友好国として交流してきた島津であった。

島津は九州制覇をめぐる豊臣秀吉との対戦や朝鮮出兵、そして関ヶ原の戦いと相次ぐ戦乱で破綻した財政の再建の為に琉球の貿易の利権を狙ってきた。

関ヶ原では西軍に加担し徳川家康に敗れた島津家久は伏見城で徳川家康に謁見し、琉球の明との交易権を獲得することによる徳川の利を説き、家康から琉球出兵の許可を得た。

1609年2月21日島津義弘は時の琉球王・尚寧に対して日明貿易を斡旋すれば出兵を中止するとの通告をした。

これに対し時の執政・謝名親方（じゃなうゑーかた）はその意図をみてとり幕府への聘礼の要求には応じなかった。

そして1609年3月初旬、島津氏は樺山久高を総大将に約3000の兵と100隻の軍船を琉球に差し向けた。鉄砲隊を主軸にした戦にたけた薩摩軍は、奄美大島・徳之島・沖永良部島・与論島をつぎつぎと攻略し、3月末、沖縄本島北部の運天港に上陸して今帰仁城を陥落させた。島津軍が侵攻してくるとそれまで戦争をしたことの無い琉球人民は多いに動揺した。勢いづいた薩摩軍はさらに読谷を攻略し、陸路と海路から首里・那覇に攻め入り、4月1日に王都首里に達した。幾多の戦乱を経験してきた薩摩軍を前に、王府軍は抵抗する術（すべ）もなく敗れ去った。

そして島津は尚寧と三司官（執政）に忠誠を誓わせる為に起請文（誓約書）を提出させようとした。その内容は、『薩摩の琉球征討は理由のないものではなく、琉球が幕府や島津への義務を怠ったことに対する懲罰であった。そのため、琉球はいったんは滅んだが、島津の恩情により旧琉球国のなかから沖

縄諸島以南を知行地として与えられた。このご恩は子々孫々にいたるまで忘れることはない』というものであった。すなわち、島津氏の琉球侵略の原因は、属国として義務を怠った琉球側にあったことを認めさせられ、かつ島津氏の好意によって、沖縄諸島以南を王国の領土としてあたえられたことに感謝しなければならないという理不尽な内容であった。この島津の一方的な起請文の押し付けに対し、執政の謝名親方（じゃなうゑーかた）は署名を拒否し打ち首となった。国政をつかさどる地位にあった謝名は、島津の侵攻にいたる一連の要求をすべて拒絶して薩摩軍と戦った立場にあった者として、最後まで責任と意志を貫いたのである。

二重支配と琉球王国の最期

琉球は表向きは明国へ忠誠を誓う小王国として存続しながら、裏では薩摩の支配下にあるという二重支配を受けることとなった。幕府及び薩摩は琉球の進貢貿易を利用しその富を得ていたのである。思えば沖縄は中国の世から薩摩の世、また太平洋戦争によってアメリカの世、復帰によって日本の世となり、常に被支配の歴史である。

それは日本全体の米軍基地の75%がこの小さな沖縄に存在している現在でも全く変わっていない。話を戻そう。

その二重支配は1871年（明治4年）の廃藩置県まで続いたのである。

その年、時の国王・尚泰は清朝から冊封使を迎え、王としての即位式をおこなっていたのである。

これが琉球王国最後の冊封になろうとは誰一人として知るよしもなかった・・・。

別バージョンその1

駆け足で琉球の歴史を辿ってみましたが、いかがでしたか？ 退屈でした？

ここで日本の歴史には出てこない逸話を別バージョンとしてご披露いたします。

私の母校、那覇の小禄高校の近くにペリーと呼ばれる一角がある。

そう幕末に浦賀に現れた黒船のあのペリーである。実は1853年5月、ペリーは日本との交渉の前に既に琉球に来ていたのである。

アメリカは琉球国が日本の支配下にあることを十分に察知していて、日本との交渉が失敗した場合は琉球を占領する計画であった。

そのことによって窮乏した琉球の農民を薩摩の支配下から解放し、アメリカの経済力で生活を向上させることができるとさえ考えていた。

もしそうなら琉球の歴史も大きく変わっていたかも・・・。

別バージョンその2

琉球王国の測量術

琉球の測量の歴史を振り返ってみよう。

日本で初めて全国的な測量(検地)を実施したのは豊臣秀吉である。(織田信長もこれ以前に大規模な検地を行なったが(信長検地・しんちょうけんち)全国的な規模には至らなかった)

秀吉は1582年から1591にかけて、各地を征服するごとに検地を行い(太閤検地)、全国を初めて統一的方法で検地がなされた。

検地の結果、それまでの複雑な土地所有関係を整理し、土地制度を一新した。またこれにより各地の石高が決定したという歴史的意味を持つ。

その後江戸時代に入り、伊能忠敬が石高決定を目的せず、近代測量の手法で全国測量を始めたのが1800年だった。

琉球では薩摩藩が1609年から始めた検地を「慶長検地」というが、その手法は日本と同様十字法で田畠を測量する大づかみのものであった。

その後、首里王府が1735年から1750年にかけて自主的に検地を実施したが、これを「乾隆大御支配」(けんりゅうのおおごしはい)といい、その際に用いられた図根点(基準点)を「印部石(シルビイシ)」という。(乾隆検地・けんりゅうけんち)

近世琉球の測量技術の特徴は、測量図根点である印部石のほかに、独特な分度法と角度表記の解読、天文観測、それに独自の測量器と近代的測量術による

「間切島針図」の製作などが挙げられる。



その精度の高さは各間切島に印部石のネットワークを設置したことで可能となった。一つの間切島に200~300の印部石を設置し、その間の方角と距離を測量し、そのデータを「印部土手台帳」に記録したと考えられている(台帳は現存しない)。

「印部石」は、測量起点となる土手の上に建てられ、周囲は崩壊を防ぐ根張石が張り巡らされていた。石には、土手の所在地として「原名(ハルナー)」「地名」と、石の順序を示す「い・ろ・は」などの記号が刻まれていました。



このような測量成果をもとに、間切・島ごとに一分五間縮尺の針図が作成された。これらの多くは沖縄戦で散逸してしまったが、最近「真和志間切針図」の一部のモノクロ写真が発見された。

沖縄県立芸術大学教授の安里進氏は乾隆検地における測量技術の意義として次の8点を挙げている。①近代的測量法②独自の測量技術③王府による組織的、全土的測量④測量図根点(印部石)の設置⑤高精度で詳細な地図を作製⑥測量帳簿の整備

⑦再測量システム⑧東アジア最先端の技術とシステム。

更に安里氏の検証によると、世界遺産である今帰仁城の現在の航空写真と乾隆検地で作図された図面を合せてみるとぴたりと一致した。

また、誰も行かないような離島の断崖絶壁の裏まで測量されており、現在の TS 測量で検証してもほぼ一致するのである。

これは検地の域をはるかに越えていた。

伊能忠敬にさかのぼる事 35 年前に、琉球では既に近代的手法による測量術が確立されていたのである。

さらに伊能忠敬の測量との決定的な違いは何か？

琉球による乾隆検地の目的は石高決定の他にあった。最大の特徴である印部石を設置したことで再測量（境界復元）が可能となったのである。

『これは土地の処分に関してなにか問題が起きた時に解決できるようにするためのシステムだ』と安里教授は言っている。

なんと琉球では 18 世紀初頭で既に ADR を想定した測量が行なわれていたのである。

ではなぜ、その時期に日本とはまったく違う手法の近代測量術が琉球において可能だったか？

それは次回の楽しみとして今回は筆を置きます。

嘘です。次はありません・・・(笑)

キーワードは『蔡温』です。

(まつもと たけひさ)

参考文献

東洋企画『琉球・沖縄史』

沖縄タイムス

講演 安里進氏（沖縄芸大教授）



沖縄県地域史協議会30周年記念・那覇市歴史博物館企画展

琉球王国の 測量技術と遺産

『印部石シルビシ』





2009年
8月7日(金) - 8月31日(月)

8月8日(土) 14時より
会場：那覇市歴史博物館 企画展示コーナー

『ハル石と地域史のおゆみ』
講師 金城 善光 (本島市役所特別顧問・琉球文化館長)

のぞき方
8月19日(木) 開場：18時 開演：18時30分
会場：パレット市民劇場 (パレットくもじ2階)

講演 安里 進 (沖縄県立芸術大学教授) 『琉球の歴史を再考する』
8月23日(土) 開演 那覇市歴史博物館『琉球の歴史を再考する』
コーナーキータン 田名氏之 (沖縄大学学長)

主催 沖縄県地域史協議会 那覇市歴史博物館
協賛 琉球大学 琉球大学地域史研究センター 沖縄県土地家屋調査士会
社団法人沖縄県公共職登記士地家屋調査士協会

那覇市歴史博物館
NAHA CITY MUSEUM OF HISTORY
場所：那覇市歴史博物館(パレットくもじ4階)
時間：午前10時～午後7時
休館日：木曜日
TEL.098(869)5266 FAX.098(869)5267

那覇支部の調査士摸合

那覇支部では毎月第一土曜日 PM7：00より東町にある居酒屋「てんぐ」にて二十数名の仲間で摸合をおこなっております。概ね1年周期で一回りするよう2名ずつ摸合金を取るようにしています。中には2回続けてとったツワモノもいますが、今では幹事さんがしっかりしているので、そういう事故はありません。

飲食費は出席してもしなくても2千円とお安く、幹事さんの裁量によりビール・泡盛飲み放題、美味しい料理を食しながら日常業務の相談やユンタク（おしゃべり）を楽しんでおります。

各支部でも同様の会があると思いますが、新入会員の皆さんにとっては知識人の先輩方に近づける場でもあり、最新の業務情報を収集できる格好の機会になると思います。

今回は9月の那覇支部の摸合の様子を料理を含め写真に収めましたので紹介します。



店内 サケヌマー（お酒大好き）の皆さん



にぎりとゴージャチャンプル



ソーメンチャンプルー



牛肉豆腐の炒め



焼肉おかず

ごちそうさま
でした



串盛



ポテトフライ



枝豆



イカフライ



居酒屋「てんぐ」

幹事 仲松貴志先生のコメント

幹事を務めさせていただいております。メンバーの中では最も若い(年齢ではなく)ものですから、先輩方の話に興味津々、毎回楽しませてもらっています。気軽に声を掛けてご参加下さい。



編集後記

若狭 I C のそばには大型旅客船のバースもあります。私は若狭生まれで実家は I C から 5 分程の所にあり、変わりゆく若狭海岸には驚くばかりです。

現在の若狭海浜公園あたりは、昔はリーフで干潟時には潮干狩りを楽しむことができ、絶好の釣り場でもありました。波の上ビーチ辺りには水上店舗（火事で焼失）や 0 銭プール（海水プール）があり、波の上宮のある旭が丘公園には有料のプールもあり、冬場にはローラスケート場になる遊び場も一時ありました。

昭和 61 年に泊大橋、波の上臨海道路が出来て快適な交通の機能を果たしていると思いきや、那覇西道路の開通により那覇市の玄関口となり、様変わりする光景に皆さんも驚愕しているのではないのでしょうか。

広報部長 糸数 厚





那覇西道路 若狭 I C

沖縄県土地家屋調査士会 会報おきなわ NO. 44

発行日 平成23年12月22日

編集者 宮城 朝光

広報部長 糸数 厚